

令和 8 年 3 月 吉日
さぎそう学舎
世田谷区立八幡中学校
校 長 臼田 治夫

令和 7 年度学校関係者評価委員会の報告を受けた次年度（令和 8 年度）に向けた改善方策

令和 7 年度の学校関係者評価について、保護者、地域の皆様には多大なるご協力をいただき、厚く御礼申し上げます。田中彰夫委員長をはじめとする学校関係者評価委員会の皆様には、本年度から区の指針変更に伴い独自に設定された質問項目の分析・検討、ならびに本校の教育活動への示唆に富んだ報告書をまとめていただきました。

本報告書では、ほとんどの項目で極めて高い肯定的評価を維持している一方で、「保護者の学校行事への参加」といった、社会環境の変化を反映した課題も浮き彫りとなりました。これらの結果を真摯に受け止め、令和 8 年度の学校経営方針および教育課程に反映させ、さらなる改善を図って参ります。

1 学習指導について

生徒一人ひとりの学習状況に応じた「個別最適な学び」を深化させるとともに、本校の教育の柱である「構成的グループエンカウンター（CGE）」の手法を教科指導にも積極的に導入します。

構成的グループエンカウンターを活用した授業実践

令和 7 年度に英語科で実施した「人間関係向上×学習実績」を両立させるオリジナル教材による授業実践をモデルとし、他教科への展開を図る。ゲーム的・チームビルディング的要素を授業に取り入れ、笑顔あふれる良好な人間関係の中で学びを深める。

生徒主体の授業展開（さぎそうタイム）の充実と小中連携

「講義型授業」からの脱却を目指し、個人・ペア・グループ・フリー・生徒司会といった多様な学習パターンからなる「さぎそうタイム」を推進する。秋田県大館市の視察成果を還元し、学び舎小学校とのスムーズな連携を図る。

ICT 機器の戦略的活用と評価の改善

タブレット端末（Team、ロイロノート、キュビナ等）を活用した個別最適な学びを継続。

「通知表の評価」に対する納得感を高めるため、評価基準の丁寧な説明と、生徒との信頼関係構築に努める。

少人数授業の継続

生徒の肯定評価が極めて高い（96%）数学・英語の少人数授業を維持し、個々の習熟度に合わせた指導を徹底する。

2 生活指導について

本校の教育活動の最重点事項として「構成的グループエンカウンター」を位置づけ、生徒の社会性と主体性を育む集団づくりを推進します。

構成的グループエンカウンター（CGE）の年間計画的実施

教育活動の柱として、大きな行事の前後に CGE を計画的に配置する。

専門講師を招聘した教員研修を実施し、全教員が手法を習熟した上で、年間を通じた「手引き」に基づく円滑な運営を行う。

生徒会主体による縦割り班活動の活性化

「縦割り班全校〇×クイズ大会」など、生徒が企画・運営する行事を拡充する。

先輩の姿を見て学ぶ伝統を大切にし、異学年交流を通じて自尊感情と自己有用感を高める。

ポジティブ行動支援（SWPBS）の推進

「認める・褒める」指導を徹底し、規範意識と思いやりを育む。

不登校傾向の生徒に対する「ステップルーム」の機能を充実させ、学校が誰にとっても安心できる居場所となるよう整備する。

3 学校行事について

生徒・保護者ともに満足度が極めて高い（90%以上）学校行事を、人間関係形成と自己実現の場として最大限に活用します。

4月の全校校外学習による集団形成

年度当初に全学年・特別支援学級による縦割り班活動を実施し、早期に良好な人間関係の土壌を拓く。

生徒の意欲と達成感の重視

行事の実行委員会活動を活発化させ、生徒が「自分が活躍できている」と実感できる場面を創出する。

4 キャリア教育について

3年間の継続的な指導により、生徒が自らの進路を主体的に選択できる能力（キャリアプランニング能力）を育成します。

「八幡中学校版キャリア・パスポート」の活用促進

自己理解を深めるための記録を継続し、目標に向かって行動する習慣を定着させる。

多角的な情報提供とガイダンス

1・2年生への早期情報提供や、2年生対象の「都立高校による訪問授業」を継続。キャリア学習における肯定的評価の向上（3年連続上昇）を維持し、進路施設の整備も検討する。

5 教職員（先生）について

生徒から高い信頼を得ている「親身な対応」を継続し、専門性の向上に努めます。

生徒理解と面談の充実

年2回の面談、教員を指名できる「ふれあい面談（1・2年）」を通じた人間関係の深化。

専門家との連携による支援体制

スクールカウンセラーや特別支援教室教諭を交えた「校内支援委員会」を週1回開催。Q-U調査や生活アンケートを効果的に活用し、いじめの未然防止と機微に触れる対応を徹底する。

6 全般について

「安心・安全で、成長の喜びのあふれる温かい学校」を目指します。

自主性と帰属意識の向上

委員会活動や行事を通じ、集団の一員としての連帯感を高める。

事務の効率化と広報のデジタル化

学校だより等の電子配布（すぐーる活用）により、確実な情報伝達と環境配慮を両立させる。

7 部活動について

生徒の主体性を尊重し、達成感を得られる活動を支援します。

外部人材の有効活用

部活動支援員、大学生ボランティア、TEAPRO等の連携を強化し、教員の負担軽減と専門的な指導を両立させる。

8 情報提供について

評価委員会の提言を受け、情報の精査と見せ方の工夫を図ります。

広報活動の質的改善

ホームページの情報更新頻度を上げ、学校生活の様子を可視化する。

重要な情報が埋もれないよう、情報の優先順位を明確にした発信を行う。

9 学校運営について

経営方針の明示

保護者会等の機会を捉え、重点目標をポイントを絞って分かりやすく伝達する。

10 家庭と学校の連携について

社会状況の変化に対応した、新しい連携の形を模索します。

参加形態の多様化

平日の来校が困難な保護者にも配慮し、PTAと連携しながら、ICTを活用した情報共有や無理のない範囲での協力体制を構築する。

11 地域との連携について

地域運営学校として、地域に育てられ、地域に貢献する学校であり続けます。

ボランティア活動の推進

九品仏地区の三大行事（盆踊り、ウォークラリー、新春こどもまつり）への参加を継続。

「八幡中学校ビブス」の着用により、地域貢献への自覚と責任感を醸成する。

大学・小学校・幼稚園との交流

産業能率大学との定期交流、小学校・幼稚園の運動会ボランティアなど、交流の幅をさらに広げる。

12 学校の安全性について

施設管理と防災・防犯対策

新校舎の設備を有効に活用し、避難所運営訓練や地域協働の防災活動を通じて、生徒の危機管理能力を高める。

以上、令和7年度評価結果を基に全教職員一丸となり、これらの改善策に取り組んで参ります。